

## 捨てる勇氣

昔からの思考としては、自分には出来る限り多くのことをしていきたいという一つのことに對して専念することに抵抗を感じていました。そのために、私は今学期の課題としては、この捨てる勇氣というものをより深く関わっていきたくて思いました。けしていい理

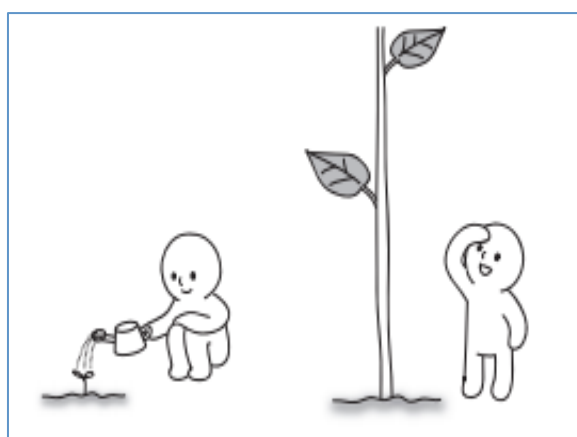
由ではないが、今学期の総合政策学におけるコーカス政策が学びの一つの例となりました。コーカスでもリーダーを務めてSFCの未来について語り合いたいが、私はもうSLUSHASIAという海外と日本のスタートアップをつなぎ合わせるイベントにコミットしていたために、今回の総合政策学のコーカスへ参加することを諦めました。より能動的に二つを比較して捨てる判断基準を作り上げるために私はしたもう一つのこととしては、ロールモデルのアフリカで社会起業家として活躍している牧浦土雅さんにどのようにこの捨てる判断基準を取るかなどを聞きました。

「AかBかで迷ったらとにかく決断することが大事。限られた時間内でAかBどちらにするかの議論をするより、Aを試し、Bを試す、というサイクルをどれだけ早く回せるかがカギ。口は結果に繋がらないけど実行は必ず何かしらの結果を生み出す。」

とSFCも軸としている「実践x研究」について話してもらって、私はよりアウトプットをしなければならぬと危機感を感じました。

## 小さくから成長する

今後の課題としては私は海外と日本のスタートアップを大規模につなげることができた経験をより自分からアウトプットしたプロジェクトへと繋げることに1学期の後半に向けていきたいと私は考えています。そして、その学びのパターンとして、私はより小さくから成長する学びのパターンを中心として学期の後半を捧げたいと考えています。具体的には、自分



が当事者である分野、自分がこれまで関わってきた分野における問題を解決していきたいとします。 引用：ラーニングパターン 創造的な学びのパターンランゲージ 井庭 崇 2015